

【開館時間】 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【休館日】 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
【観覧料】 一般420円(350円)、高校・大学生250円(200円)、小・中学生110円(90円)
 ()は、20名以上の団体料金、大学等*の授業でご利用の方、授業レポート等の作成を目的とする高校生、3ヶ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)
 *大学等は、短大、大学、大学院、専修学校の専門課程
【無料観覧日】 11月3日(水・祝)、11月20日(土)、11月21日(日)
 ※自然文化園(有料区域)を通ってこられる場合、自然文化園各ゲート脇の券売機で当館(国立民族学博物館)の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
 ※障害者手帳をお持ちの方は付添者1名とともに、無料で観覧できます。また、毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。ただし、自然文化園を通行される場合は、同園の入園料が必要です。

【交通のご案内】
 ※国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。
●大阪モノレール
 「万博記念公園駅」下車徒歩約15分
 (展示場をご覧になる方は、みんなくの観覧券をゲートにてお買い求めになれば無料で通行できます。)
 「公園東口駅」下車徒歩約15分
 (「公園東口駅」からは自然文化園を通行せずに来館できます。)
●バス
 (近鉄バス) (阪大本部前行き) 阪急茨木市駅から約20分
 JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分
 (阪急バス) (万博記念公園駅経由千里中央行き) 阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
 「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分
●タクシー
 万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。下車、徒歩約5分
●自動車
 駐車施設が無いためみんなくへの車の乗り入れはできません。万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
 ※「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある国立民族学博物館専用通行口をお通りください。

お問い合わせ先
 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
 TEL: 06-6876-2151
<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなくウィークエンド・サロン
 研究者と話そう

●「境界を越えて—ベトナムの事例から」

塚田誠之(本館教授)
 日時: 10月17日(日) 14:30-15:30
 場所: 企画展示場A

●「アムールの人々の文化交流」

佐々木史郎(本館教授)
 日時: 11月7日(日) 14:30-15:30
 場所: 企画展示場A

ギャラリートーク

日時: 11月13日(土) 14:30-15:30
 展示解説: 上野祥史
 (国立歴史民俗博物館 准教授)
 場所: 企画展示場A

日時: 11月23日(火・祝) 14:00-15:00
 展示解説: 中村和之
 (函館工業高等専門学校 教授)
 場所: 企画展示場A

国立民族学博物館



企画展

平成22年10月14日[木]—12月7日[火]
 国立民族学博物館 企画展示場A
 主催: 国立民族学博物館 / 国立歴史民俗博物館

境界とは
 どのようなものなのか
 境界を越えたいのか
 何が生じたのか

アジア
 境界を越えて
 Beyond the Boundary in Asia

●人間文化研究機構連携展示



企画展
ア
境
越
界
を
の
え
て



古代 せいじ こっか れんべんもんわん
青磁刻花蓮弁文碗など
(大阪市立東洋陶磁美術館蔵)



古代 こくゆうてんけいこ
黒釉天鶏壺
(大阪市立東洋陶磁美術館蔵)



北方 女性用衣服(魚皮製)

シロザケの皮をつつた生地を裁断し、布で装飾を施した女性用の上衣。魚皮は防水性が高いことから、漁の時の作業着に使われることが多かったが、晴れ着に仕立てられることもあった。
ロシア連邦沿海地方

ながい歴史のなかで、アジア世界には、王権が意識した境界や人々の活動にあらわれた境界などさまざまな「境界」を見出すことができます。この展示は人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本：交流と表象」での境界をめぐる動きに関する研究の成果の一部です。

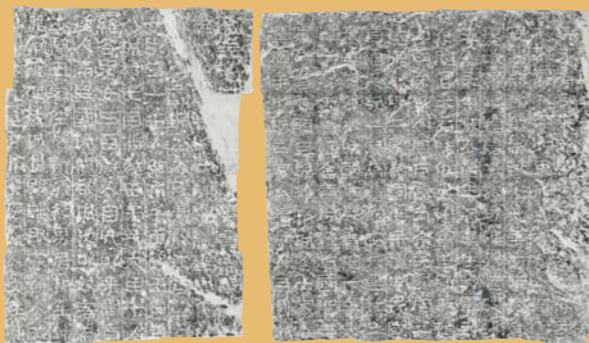
古代では、中国の周辺諸民族が国家形成を進めた5世紀を対象とし、出土資料から中国南朝や倭など王権の意識した世界の広がり、大陸から倭への技術の伝播を示します。

近現代では、近代国家が成立する18世紀から20世紀を対象にします。北方では北海道からサハリン、千島列島、アムール川流域にいたる民族集団について、清朝や江戸幕府など国家による認識、物質文化の異同からみた集団の相互認識を示します。

南方世界では中国南部からタイへ移住した諸民族について、移住に対する自らの認識、移住の動因、移住後の文化変容を示します。

古代と近現代を比較することで、境界の姿を映し出すとともに、現代において境界のもつ意味を考える場を提供することができれば幸いです。

※所蔵先のかかれていないものは国立民族学博物館蔵です。



古代 高句麗広開土王碑拓本
(国立歴史民俗博物館蔵)

広開土王代の事跡を記した高句麗の碑文。百済・新羅をもとの属民とみる文章や倭との交戦記録があり、高句麗の世界観・天下観があらわれている。404年(永楽14年)に倭が進入したので高句麗がこれを破った、などの記事がみえる。



北方 どうじゃくたいがけん
銅雀台瓦硯
(松前町教育委員会蔵)

1485年(文明17年)にサハリン経由で松前家の祖先に伝えられたといわれる硯。銅雀台とは三国時代の魏の曹操が築いた建物のこと。室町時代のアムール川、サハリン、北海道経由の交易、交流を物語る資料。

北方 白樺樹皮船

カラマツ材とトウヒ材の骨組みを白樺樹皮でくるんだボート。軽く持ち運びやすい上に丈夫で水面での安定性も高い。このボートは大型なので100kg程度の荷物を積むことができる。
ロシア連邦ハバロフスク地方



南方 ろしやう
楽器「蘆笙」

6本の管をもつリード楽器で、中国・タイのモン族のもとして人生儀礼に不可欠。中国から移住の後も保持されるとともに、演奏技術の交流が今も行われている。
中国雲南省文山県



北方 蝦夷錦(国立歴史民俗博物館蔵)

「蝦夷錦」とは江戸時代に松前藩からもたらされた中国製の絹織物のことで、この資料はいわゆる「赤地牡丹型」と呼ばれたもの。松前藩はサハリンでアイヌや「サンタン人」と呼ばれた大陸の商人から手に入っていた。

南方 ひょうこうけんちよう
評皇券牒(南山大学人類学博物館蔵)

1974年、白鳥芳郎博士の率いる上智大学調査団が、タイ王国ランパーン県ガオ郡で入手し将来した。祖先の由緒、免税や山中居住などの特権、官位の賜与などが漢字で書かれ、ミエンの人々のアイデンティティの拠り所となっている。



(巻末)



(巻頭)



北方 永寧寺記碑拓本
(市立函館博物館蔵)

1413年(永楽11年)に、現在のアムール川最下流のティル村に当たるヌルガンの地に建てられた永寧寺の建立の経緯を記した碑文の拓本。当時中国の明王朝はヌルガンに都指揮司という役所を設け、ニヴフやアイヌなどのこの地域の住民を支配した。

南方 モン族の刺繍「ストーリー・クロス」

モン族がラオス・タイを経て第三国に定住するまでの受難の移住史を元難民が多色の綿糸で刺繍したもの。
タイ王国ベッチャブーン県



南方 儀礼を執り行う祭司

ミエン(ユーミエン)族は漢族から道教を受容し、その宗教は道教的色彩が強い。「掛燈」(クワタン)などの功德造成儀礼、祖先祭祀・葬儀などさまざまな儀礼を執り行う。漢字で書かれた経文(個人蔵)、鐘を手を持っている。
タイ王国ナーン県



南方 ラフ・ナ女性衣装

「黒ラフ」とも呼ばれる。黒色を基調とし、銀製装身具を身に付けている。なお、ラフ族が移住の途上でラフ・ニ(赤ラフ)というサブグループが派生した。
タイ王国チェンラーイ県



南方 銀製首飾り

タイ王国チェンラーイ県

南方 結納用の銀の延べ棒

銀を動産として貴重品とする観念が中国から移住後も保持されてきたことを物語っている。モン族やミエン族のもとでは今でも結納用に使われている。